

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 7日

中施策事業名	体育補助金事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている		
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる		
③中施策	一緒に運動を楽しむ仲間を増やし、リーダーを育成する		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	気軽に運動ができるように、仲間に囲まれ、指導者にも恵まれている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・選手派遣補助事業（体育協会・レク協会等）に関すること ・体育協会（16団体）事務及び調整に関すること ・レクリエーション協会（4団体）事務及び調整に関すること ・スポーツクラブ事務局に関すること ・ふれあい広場設置補助事業（2団体）に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
県大会以上への出場者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	23	25	25	27	27	27
	実績値	16	21				
単位	人						
スポーツクラブ登録者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	200	200	200	200	200	200
	実績値	189	158				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				8, 160千円	8, 346千円	
	a 事業費合計			6, 387千円	6, 592千円	7, 020千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 3 人	0. 3 人	
			b 金額	1, 773千円	1, 754千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			1, 773千円	1, 754千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				8, 160千円	8, 346千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				119 円	121 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	県大会以上の出場者数は順調に伸びているが、子どもの人口が減少していく中、各団体はクラブ員確保にそれぞれ努力している。補助金に関しては、他種目の導入や総合型等の充実を図ることにより適正な助成を検討していく必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	体育協会、レクリエーション協会、スポーツクラブ等各団体の抱える問題は、それぞれあるため、各団体からの聞き取りを進め、将来展望を描く。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	種目やそれぞれの構成団体の見直しを進める。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	広報、ホームページを通し、周知にPRに努めた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	できるだけ各団体が顔を見合わせれる機会を作り、各団体の問題を共有し、解決策を検討していく。	

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 7日

中施策事業名	スポーツ振興事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司

①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる
③中施策	誰もが運動を楽しめる機会や場をつくる
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	誰もが楽しみながら運動に親しみ、健康的な生活を送っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊明市スポーツ表彰事務に関すること ・市民体育大会総合開会式及び各団体競技の調整に関すること ・スポーツ推進計画審議会(計画進行管理)に関すること ・市民歩け歩け運動に関すること ・スポーツ講演会に関すること ・市民レクリエーションスポーツ教室に関すること ・ラジオ体操会に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
スポーツ賞表彰対象者	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	60	62	64	66	68	68
	実績値	47	19				
単位	人						
市民体育大会参加者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	3,700	3,700	3,700	3,750	3,750	3,750
	実績値	3,686	3,324				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				21,068千円	20,359千円	
	a 事業費合計			9,250千円	8,669千円	9,136千円
	人件費	正規職員	人数	2 人	2 人	
			b 金額	11,818千円	11,690千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	1 人	
			金額	0千円	276千円	
			人件費合計			11,818千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				21,068千円	20,359千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				307 円	296 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	スポーツ賞表彰対象者は多く減少したが、団体競技で好成績を収めるかどうかで大きく変動する。市民大会参加者についても多くの競技から成り立っており変動幅内と考えているが、今後補助金の適正規模化についても他市町の情勢を踏まえて検討が必要と考える。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	事業によっては市民に対して周知不足の点もあるので、広報、ホームページを見やすくするなど、よりきめ細やかな周知を心掛ける。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	各事業を再評価しながら、それぞれの足りない部分を補足していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	市民大会総合開催式に、「スポーツ講演会」を開催するなど関係者だけでなく、一般の方も参加できるように配慮した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	施設の開放状況、スポーツ教室実施状況等を利用者アンケートにより把握し、今後の展開に繋げていきたい。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 3日

中施策事業名	体育施設維持管理運営事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている		
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる		
③中施策	誰もが運動を楽しめる機会や場をつくる		
④中施策事業の対象	施設利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	健康的な生活を送るため、快適な環境で運動に親しんでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・施設に係る修繕工事等に関すること ・用地借地契約に関すること ・体育施設利用調査、調整事務（優先団体使用・グラウンド・テニスコート）に関すること ・行政財産目的外使用料算定、許可に関すること ・指定管理（委員会）に関すること ・備品台帳の整理に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
福祉体育館及び体育施設等の利用者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	216,600	216,800	217,000	217,200	217,400	217,400
	実績値	223,209	226,798				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				109,302千円	107,467千円	
	a 事業費合計			105,165千円	103,375千円	180,084千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.7 人	0.7 人	
			b 金額	4,137千円	4,092千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			4,137千円	4,092千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				109,302千円	107,467千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1,590 円	1,564 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	指定管理状況については、モニタリングを通して評価項目をチェックしており概ね妥当と判断している。また、平成30年度は勅使テニスコートの改修工事を予定しており、そのため前年度に比べ事業費増となっているが、スポーツ振興くじ助成金を活用した中で段階的に体育施設の充実化が図られていると考えている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	予定されている各種営繕工事について、利用者の立場に立った工事を心掛ける。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	平成31年度が指定管理者制度の更新時期なので、他市町の情報を収集するなどして、さらにより良い指定管理者制度を目指していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	中央監視装置を更新するなど、年度ごとに計画的な整備を進めた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	過去5年間のモニタリング結果を再検討し、指定管理者更新に向けて準備を行う。	

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 7日

中施策事業名	公民館管理運営事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	それぞれの教養を高めながら活発に交流している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 公民館サークル ・ 公民館まつりに関すること ・ 公民館の運営及び運営審議会、公民館連合会に関すること ・ 公民館講座に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
中央・南部公民館 利用件数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	2,600	2,650	2,650	2,700	2,700	2,700
	実績値	2,681	2,768				
単位	件						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				33, 050千円	22, 463千円	
	a 事業費合計			27, 141千円	16, 618千円	18, 369千円
	人 件 費	正規職員	人数	1 人	1 人	
			b 金額	5, 909千円	5, 845千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	4 人	0 人	
			金額	3, 977千円	0千円	
		人件費合計			9, 886千円	5, 845千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				33, 050千円	22, 463千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				481 円	327 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	効率的な利用調整をし、利用件数を増加させ、目標値を上回る数値を達成しているが、相変わらず従来からの利用団体が多い。利用者の高齢化もあるので、目標値維持のために若い世代の利用が不可欠であるため、講座の充実また、施設の修繕等計画的に実施するため事業費の増額が必要である。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	南部公民館で市民課機能が導入されたので、より効率的な運用を行うとともに、不在者投票業務も検討していく。また、講座の充実及び施設老朽化に伴う修繕等を計画的に実施するため、事業費を増額した。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	施設運営に関して、常に効率的、利便性（特に若い世代の使いやすさ）を考慮する。具体的には、市民課、総務課等とも協議を行い、多機能を有した公民館を目指していくとともに、若い世代を対象にした講座等を開催していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	市民課出張所として、順調に運営できるよう職員に協力体制をとった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	不在者投票所として機能するように検討を行い、実施に向けて担当部署と調整する。	

中施策評価書

作成日 平成30年 6月 1日

中施策事業名	文化広場管理事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	施設利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多様な人が、健康で文化的素養を相互に高めている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 勅使会館の管理、運営及び支払いに関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
勅使会館の利用人数（和室）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	4,250	4,250	4,250	4,300	4,300	4,300
	実績値	4,104	5,141				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				7, 850千円	7, 700千円	
	a 事業費合計			6, 077千円	5, 946千円	6, 648千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 3 人	0. 3 人	
			b 金額	1, 773千円	1, 754千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			1, 773千円	1, 754千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				7, 850千円	7, 700千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				114 円	112 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	夏休みに子どもを対象とした事業を行うなど講座等の企画により利用者数が増加した。また、指定管理者制度については、モニタリングを通して適正に管理運営されていると判断している。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	利用予定が少ない時期に、講座等を開催して利用者の増加を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	長期的な展望を基に、安定的な利用者数を確保する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 21日

中施策事業名	青少年対策事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司

①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる
④中施策事業の対象	市内小中学生及び地域の人たち
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	小中学生が、それぞれの地域で、地域の人たちに支えられ、生き生きと暮らしている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・青少年健全育成地区活動連絡協議会及び家庭教育推進協議会に関すること ・青少年健全育成推進員に関すること ・子ども情報誌の発行に関すること ・成人式に関すること ・家庭教育学級に関すること ・民謡講習会及び子どもフェスティバルに関すること ・文化系ジニユアクラブ (CJC)に関すること ・放課後子ども教室に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
放課後子ども教室 登録児童数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	240	260	280	300	320	320
	実績値	252	259				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				40, 659千円	38, 299千円	
	a 事業費合計			34, 159千円	31, 869千円	41, 895千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	1. 1 人	1. 1 人	
			b 金 額	6, 500千円	6, 430千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	12 人	0 人	
			金 額	2, 972千円	0千円	
		人件費合計			9, 472千円	6, 430千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				40, 659千円	38, 299千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				592 円	557 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	放課後子ども教室については、市内9小学校の内4学校が未実施だったが、1小学校が開校されたため、登録児童数が増加した。開校に伴い事業費を増額した。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	放課後子ども教室については、既存施設を活用し、未実施校1校の開校を目指すため事業費を増額した。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	放課後子ども教室については、既存施設を活用し、未実施2校のうち1校は、平成31年度、残り1校については平成32年度以降の開校を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) (仮)三崎小学校放課後子ども教室	内容、理由、時期等 放課後子ども教室未設置小学校での新規開校(平成30年12~2月)
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	放課後子ども教室は、直営、委託を問わず、教室内容の充実が図れた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	放課後子ども教室は、開催日数を含め委託内容を常に精査し、コスト削減に努めていく。	

中施策評価書

作成日 平成30年 6月 1日

中施策事業名	社会教育活動事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司

①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる
③中施策	地域活動を活発にする
④中施策事業の対象	市内小中学生
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	小中学生が、地域の人たちに支えられ、活発に活動している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・人権教育に関すること ・社会教育委員会に関すること ・情報誌の発行・HPの運営に関すること ・市P連・女性の会補助金に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
文科系ジュニアクラブ数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	6	7	7	7	7	7
	実績値	6	6				
単位	クラブ数						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				8, 100千円	8, 082千円	
	a 事業費合計			5, 145千円	5, 159千円	5, 305千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 5 人	0. 5 人	
			b 金額	2, 955千円	2, 923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	1 人	0 人	
			金額	796千円	0千円	
		人件費合計			3, 751千円	2, 923千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				8, 100千円	8, 082千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				118 円	118 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	子どもが減少する中、クラブ数の増加はなかったが、各クラブの維持が図れ、継続的な活動が達成された。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	クラブ員の増加及び指導者の育成のため、対応策を検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	関連団体との連携を構築する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 既存クラブ員数の増加	内容、理由、時期等 広報、ホームページ等により周知活動を行う。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) クラブの新規加入	内容、理由、時期等 校長会や小中学校を通じ、種目による加盟の有無を検討する。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	指導者に大学生を迎えるなど、若い世代の指導者を育成した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	役員会等を通じ各クラブの同士の意見交流を行っていく。	

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 7日

中施策事業名	文化会館管理運営事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる		
④中施策事業の対象	施設利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	文化的素養を育み、文化、芸術を発信している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・施設に係る修繕工事等に関すること ・指定管理に関すること ・会館の財産等に関すること ・公立文化施設協会に関すること (施設損害賠償保険含まず)		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
利用者数（29年度 ホール耐震工事、 30年度指定管理）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	136,000	58,000	136,500	137,000	137,500	137,500
	実績値	148,089	47,935				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				215,857千円	441,417千円	
	a 事業費合計			204,039千円	429,727千円	105,520千円
	人 件 費	正規職員	人数	2 人	2 人	
			b 金額	11,818千円	11,690千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	4 人	5 人	
			金額	3,101千円	4,778千円	
		人件費合計			14,919千円	16,468千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				215,857千円	441,417千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				3,141 円	6,423 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度についてはホール客席天井等の大規模工事により一時的に利用者数が減少したが、改修工事も終え今後は安定的な運営が期待できる。また、平成30年度から始まる指定管理者制度への移行もスムーズに行うことができた。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	安定的な施設運営ができるように、指定管理者と運営や設備等の改修について協議、調整を行い、利用者サービスの向上に努める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	安定的な施設運営ができるように、指定管理者と運営や設備等の計画的な改修等について協議、調整をする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	ホール客席天井等改修工事を予定どおり完了し、指定管理者制度を導入することができた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	施設管理について、中長期改修計画の見直し、検討及び実施計画への反映を行う。また、指定管理者制度の安定的な運用のため、指定管理者と必要に応じて協議を行う。	

中施策評価書

作成日 年 月 日

中施策事業名	文化会館自主事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	文化会館館長 稲熊篤子

①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる
③中施策	新しい文化を醸成する
④中施策事業の対象	施設利用者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	様々な文化・芸術に触れたり、参加したりしている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 演劇や音楽などの公演事業

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
公演来場者数（29年度ホール耐震工事、30年度指定管理）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	3,000	0	3,100	3,200	3,300	0
	実績値	2,967	0				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				19, 183千円	0千円	
	a 事業費合計			13, 274千円	0千円	0千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	1 人	0 人	
			b 金 額	5, 909千円	0千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等	人 数	0 人	0 人	
			金 額	0千円	0千円	
		(事業費に含む)				
人件費合計			5, 909千円	0千円		
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				19, 183千円	0千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				279 円	0 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか			
	大施策に貢献していますか			
	重点をおく指標は妥当でしたか			
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか			
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)			
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか			
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか			

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項		
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 24日

中施策事業名	文化財保護事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司

①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域の歴史・伝統・文化を正しく認識し、愛着をもって継承している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ナガバノイシモチソウに関すること ・大狭間湿地に関すること ・市文化財の保護、保存及び補助金に関すること ・市文化財の保護、保存及び補助金の申請及び交付に関すること ・文化財保護委員会に関すること ・文化財の維持管理に関すること ・埋蔵文化財の調査、実測及び台帳への登録に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
一般公開見学者数 (ナガバノイシモチソウ)	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	510	520	530	540	550	560
	実績値	860	690				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				23, 048千円	40, 458千円	
	a 事業費合計			14, 184千円	31, 690千円	22, 815千円
	人 件 費	正規職員	人数	1. 5 人	1. 5 人	
			b 金額	8, 864千円	8, 768千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	1 人	1 人	
			金額	205千円	212千円	
		人件費合計			9, 069千円	8, 980千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				23, 048千円	40, 458千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				335 円	589 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	H29年度は、大狭間湿地用地の購入を行ったため事業費が大幅に増えた。地元高校及び近隣大学において、学生向け課題にも取り入れられ、成果指標は目標値を達成しているが、年により大きな変動も伴うため、安定的な見学者数を確保するため、的確な情報発信が必要。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	文化財の保全に努める。また、収蔵文化財の集約化について、文化財保護委員会において統一的な見解を纏める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	文化財への知識を深めることができるよう、ホームページの内容を見直す。また、唐竹小学校にある歴史民俗資料室の今後の有り方を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	市指定文化財2ヶ所新規設定し、保全強化した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	ホームページにおいては、レイアウト、写真等視覚的な画面を多く取り入れていく。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 6日

中施策事業名	市史編さん事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司

①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域の歴史・伝統・文化を正しく理解している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・市史の編さん及び編さん委員会に関すること ・市史新規資料の受け入れに関する こと ・広報「とよあけの自然」、「市史だより」に関すること ・愛知県市史整備市町 村協議会に関すること ・歴史民族資料の収集及び資料室に関すること ・歴史民族資 料調査研究会に関すること ・史跡ガイドに関すること

■評価指標

中 ・ 長 期 成 果 に 対 す る 目 標 達 成 状 況								
市史販売数		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	20	20	20	20	20	20
		実績値	20	10				
単位	冊							
		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				5,763千円	5,750千円	
	a 事業費合計			2,808千円	2,827千円	2,887千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	2 人	2 人	
			金額	2,528千円	2,553千円	
		人件費合計			5,483千円	5,476千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				5,763千円	5,750千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				84 円	84 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	販売数が目標値に達しているが、販売数は年により変動が大きい。また、現在は資料整理が主な事業となっているので、大施策に大きく貢献するまでには至らない。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	文書等多くの寄贈があったため、計画的に資料整理を進める。また、唐竹小学校跡地へ編纂室移設が、スムーズに行えるように資料の精選も行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	二村台地区新設校の開校に間に合うように、二村会館に所蔵されている文化財を精選し、保管場所を確保し、移動を完了する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	寄贈を受けた資料については、適正な保存作業を行った。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	平成19年3月以来改訂していない市史の本格的な改訂版については、予算、人員等の投入が難しいので、簡易版等の作成を検討している。	

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 7日

中施策事業名	陶芸の館管理事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	かつての陶芸産地であった歴史的経緯を理解し、現在も文化を継承するとともに発信し続けている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・陶芸教室に関すること ・陶芸の館の管理、運営及び支払いに関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
陶芸の館利用者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	2,200	2,300	2,400	2,500	2,600	2,600
	実績値	2,099	1,891				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				5,466千円	3,477千円	
	a 事業費合計			2,511千円	2,892千円	2,818千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.5 人	0.1 人	
			b 金額	2,955千円	585千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			2,955千円	585千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				5,466千円	3,477千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				80 円	51 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	特殊な施設であるため、利用者が限られてしまう点から、利用者数は安定しており現時点では、概ね適正に運営できている。また、陶芸利用だけでなく、区主催事業での借用もあった。施設の老朽化に伴い、計画的なコスト管理が必要である。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	修繕箇所に優先順位をつけ、計画的に改修する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	現年にできないものについての改修計画を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	設備更新時期の洗出しを行ったが、現状設備の不具合が発生したため、まずは空調機、自動扉の修繕を行った。また、他用途利用も促すため、地元へ利用促進への宣伝を行ったが、陶芸施設の他用途利用は、難しいものがあった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	立地は問題ないが、施設自体が陶芸用に作られており、他用途利用には不都合な面が多い。陶芸利用を含め更なる利用拡大に向けて検討を進めている。	

中施策評価書

作成日 平成30年 5月 29日

中施策事業名	市民文化育成事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する		
④中施策事業の対象	市内在住・在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	世代や分野を問わず、文化的な素養を高め、発信し続けている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・文化協会等の団体育成及び指導に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市民文化講座等の 参加者数（29年度 ホール耐震工事、 30年度指定管理）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	1,600	220	1,650	1,700	1,750	1,750
	実績値	2,406	162				
	単位	人					
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				10, 325千円	9, 020千円	
	a 事業費合計			4, 416千円	3, 175千円	972千円
	人 件 費	正規職員	人数	1 人	1 人	
			b 金額	5, 909千円	5, 845千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			5, 909千円	5, 845千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				10, 325千円	9, 020千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				150 円	131 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	文化会館改修工事の関係で、平成29年度は開催することができなかった事業もあったが、開催可能であった事業については概ね計画どおり進めることができた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	平成30年度より指定管理者制度へ移行となるので、現年度においては指定管理者と調整を図りながら市民の芸術の発展及び市民文化育成に努めていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	現年度の指定管理者とは平成34年度までの5年間協定を締結しているので、引き続き指定管理者と調整を図りながら継続的な市民の芸術の発展及び市民文化育成に努めていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	ホール改修工事等の影響により、ほとんどの事業が実施できなかったが、できる範囲内で開催した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	これまで市が実施していた自主事業は、今後指定管理事業者が実施することとなるので、順調に引き継がれるように、指定管理者予定者と調整を行った。	